

マイボトルを山口大学生のステータスに

—AQUA—

代表者 長嶺萌（国際B 3年）
副代表 長嶺千佳（国際B 3年）

1. プロジェクトの概要

私たちは、SDGsのゴールである14（海の豊かさを守ろう）に興味関心を抱くチームです。中でもプラスチック問題に注目し、ペットボトル削減のために自動販売機でペットボトル飲料を購入するのではなく、マイボトルを多くの学生に使っていただく必要があるという結論に至りました。そのため、学内にウォーターサーバーを設置しました。どれほどの需要があるのか、マイボトルの普及率はどれくらいなのか、そのほかにも学生の意識向上に対して様々な方法でアプローチをしてきました。目的としては学生の環境問題やプラスチック問題への意識改革、プロトタイピングの実施、調査となっています。

2. プロジェクト着想の背景

2年次、持続可能な社会に向けた活動を行なっている団体であるジャパンユースプラットフォーム（Jyps）の活動の一部であるユースアンバサダープロジェクトにアンバサダーとして参加したことがきっかけで、SDGsについて関心を抱くようになりました。アンバサダーとして、山口大学の学生にマイボトルを使ってもらうにはどうしたらいいのか、そもそもマイボトルの普及率はどれくらいなのかなど様々な問題に関して考えましたが、コロナ禍のためオンライン授業が多くなったことがあり、キャンパスには学生がおらず調査が進みませんでした。そのため、アンバサダーとしては自動販売機に変わるものの提案にとどまりました。そこでおもしろプロジェクトに応募することで、このように考えてきた企画を実現させたいと思い応募いたしました。

3. プロジェクトの目的

山口大学では様々な活動が行われており、SDGs活動が盛んだと思われます。イギリスの高等教育専門誌による世界大学インパクトランキング2019において、山口大学は総合順位で世界101~200位のグループに位置し、国内4位（国公立大学では3位、中四国・九州地域では1位）となっています。一方、学生主体のSDGsに関する活動が少ないことから、学生と山口大学の意識の違いの差が大きいのではないかと考えています。そのため、ウォーターサーバーの使用を促進することで間接的にSDGsについて考える機会が生まれることを目的としています。

私たちはこのプロジェクトを行う上で、プラスチック削減の観点からマイバックをマイボトルの比較対象として考えました。環境省の調査データによると、コンビニやスーパーのレジ袋が有料化になったことでレジ袋をもらわなくなった人が2倍になったというデータがあります。しかし、昔からエコバックは推奨され、レジ袋も有料化が増えていたにも関わらず、なかなか普及しなかったという現状がありました。なぜ、マイバックの普及率が近年急速に上がったのでしょうか。私たちの考えでは、レジ袋の値段が上がることである程度の強制力が人々に追加されたため、一定の人々が意識し始めたことが始まりだと考えます。その後全体意識として値上げが提示されさらに多くの人が意識するようになり、意識の低い人も感化されたのではないかと考えます。このような方法でのアプローチは私たちには難しいと考えました。なぜなら私たちにペットボトルの値段をあげることは不可能だからです。そのため、逆に飲み物を無料で提供し、マイボトルを使うことで環境保全について意識させようという結論に至りました。その意識づけがマイボトルを学生が持続的に使っていきつかけになるのではないかと考え、マイボトル専用のウォーターサーバーを設置したいと考えました。おもしろプロジェクトの最終的な目的は、学生の意識を変えることです。

4. プロジェクトの魅力

本プロジェクトの魅力は、以下の4つです。

- ・現時点での学生のSDGsや環境への意識が明らかになると同時に、山口大学生の意識の変化を見ることが

できます。

- ・学生がマイボトルを持ち歩くことが当たり前になり、プラスチック問題など環境問題に対する意識も高めることで、マイボトルを使うことがかっこいいという意識が山口大学生のステータスになります。これによって、他大学にはないステータスの構築ができます。
- ・大学側ではなく学生が活動を行い学生に働きかけることも魅力です。
- ・山口県も同様に海洋ゴミの発生防止に向けて、プラスチック・スマートキャンペーンを行なっています。そのため、山口大学生が同じタイミングで活動を行うことで山口の人々の意識も変えることに繋がるのではないかと考えます。

5. 活動内容

ウォーターサーバー設置から終了までの活動内容を下記に記します。

5.1 設置場所の検討・交渉

多くの学生にウォーターサーバーを利用していただくために、なるべく目立つ場所で人通りが多い場所を選ぶ必要がありました。そこでFAVO、図書館などの意見が上がりました。交渉の結果、図書館に置いていただけることになったので設置場所は図書館に決定しました。その後、おもプロ関係者の方々や業者の方に協力していただいて9月下旬より図書館にてウォーターサーバーを設置するに至りました。感染症対策として、消毒液とペーパータオルを設置しました（図1）



図1 設置されたウォーターサーバー

5.2 ウォーターサーバーへのガイド

図書館に入館してすぐ、目につきやすいところにパネルを設置しました。以下のようなパネルを作ってください、設置することでウォーターサーバーの位置がわかりやすいように工夫しました。(図2)



図2 設置したパネル

5.3 流量結果

設置約5ヶ月で、292Lの使用が確認されました。これは、500mlのペットボトル約900本分となります。1ヶ月で換算すると、1台のウォーターサーバーからペットボトル180本分の水が使用されたこととなります。(図3)



図3 流量計の写真

6. アプリ開発について

当初の予定では、利用者数も測るつもりでした。そのため、アプリを開発しウォーターサーバーが動くたびにスマホと連携するようなシステムを開発したいと考えていました。アプリ開発の講義を受け、先生にも教えていただきプログラミングを勉強しました。仮ホームページの作成まで至ったのですが、時間的にも技術的にも利用者数をカウントするまで追いつきませんでした。

7. 結論

この半年間、おもしろプロジェクトを行ってきて感じたのはマイボトルが想像以上に浸透しているということです。プロジェクトを始める前は、果たして使用する学生はいるのだろうかという疑問があったのですが、結果的には使用している学生が多いと感じました。親しい友達や知人にもウォーターサーバーを使用している人が多く、続けて欲しいという声をたくさんいただきました。このプロジェクトを通じて、「マイボトルを持っている学生は多いが、使用している人が少ない。理由としては給水場がないからだ」ということが明らかになりました。大学内だけでなく、日本中に自動販売機と同じ台数ほどのウォーターサーバーが設置されれば、マイボトルの使用が定着すると考えました。